



Japan Society of  
Youth and Adolescent Psychology

# News Letter

第59号 2012年10月1日  
発行：日本青年心理学会事務局

## ■目次

### <特集>今の青年と自分自身の青年時代を比べて～共通点と相違点～

丹羽智美：自分もできた大学生ではなかった

佐藤有耕：今どきの大学生は

高橋靖恵：今の青年と自分自身の青年時代を比べて

西平直喜：世代差を想う

### <書評>

高村和代：速水敏彦編著『仮想的有能感の心理学－他人を見下す若者を検証する』

都筑 学：若松養亮著『大学生におけるキャリア選択の遅延－そのメカニズムと支援』

### <広報>

事務局からのお知らせ

### <特集>今の青年と自分自身の青年時代を比べて～共通点と相違点～

日頃、生徒や学生という今の青年に接している中で、気になることや意外に思うこと、驚くことがあります。例えば、「どうしてそんなことを?」「まったくもう!」「なかなかみどころもある!」等々の印象をもつことがあります。そして、自分自身の青年時代を比べてみると、様々な思いが浮かび上がってくるかと思えます。そこで、今の青年と自分自身の青年時代と比較するというテーマを設定しました。

執筆者は、年代を異にする会員の方々へお願いいたしました。この特集が、今の青年に対する青年心理学会会員の皆様の様々な思いを共有していくきっかけとなることを願います。

(担当：小沢一仁，則定百合子)

### 自分もできた大学生ではなかった

丹羽 智美 (梅光学院大学子ども学部)

先日、教職免許履修者に関する学内会議で出た意見に、学生が教育実習中に実習先を訪問した先生に、実習終了後にあいさつしに来ないというものがありました。様々な常識が今の学生に作られていないため、細かい指導が必要だという意見に、他の先生からも類似した意見が出されました。

確かに、教員の立場から見ると、あいさつに来てくれたり、報告しに来てくれたりすると、情報が入るので安心します。時に心配もしていますので、様子を見ることができると対応できて助かる面もあります。しかし、私が大学生の時、報告やお礼を細やかに伝えていた自信

がありません。「実習を終えてきました」「試験を受けてきました」は先生方もご存じのこと  
で、わざわざ言われても返事に困るだろうと置いていたからです。また、先生方が訪問時間  
を作ることの大変さ、学生に腐心する大きさを知らなかったということもあります。このよ  
うに、自分ができのいい学生ではなかったため、教員になった今、実習の報告をはじめ、教  
採を受けた結果や赴任先を自分からは報告しに来ない学生がいても、手間がかかると思いつ  
つ理解はできたのです。

しかし最近、自分の時とは違うなと思うことがありました。1年生に調べ学習を行わせて  
いたときのことで、班ごとに本を1冊ずつ貸し出し出しており、それを使えばおおむね事足り  
ると予想していました。しかし、ある班は本を全く開かず、各自のスマートフォンで調べ始  
めたのです。今の大学生はインターネットで検索し、指定された内容が表示されることに慣  
れていて、求める情報を本から探し出す力がついていないのかもしれない。

不出来な学生だった私が同情的に今の大学生を見ている可能性は否定できません。しかし、  
世代差を感じる部分は上記のような環境の変化に伴う部分に限られ、多くの部分は私の学生  
時代に周囲にいた学生や自分自身とあまり変わらないように思います。

---

---

### 今どきの大学生は

佐藤 有耕 (筑波大学心理学類)

今どきの大学生は授業に出る。受講生のほとんどが高出席者になる。したがって、出席回  
数では成績に差がつきにくい。高出席率の弊害が私語である。休んでもいいのに、と思わな  
いでもない。しかしそれは出席を取る今どきの教員のせいでもある。サボるよりはほめられ  
ていいのに「生徒化」と揶揄される。何をやっても何か言われてしまうのが青年か。

今どきの大学生は、臆することなく直接教員に質問する。「先週の課題は何でしたか？」な  
どと。なぜ友だちに聞かないのかとも思うが、課題を出した教員に直接聞く方が間違いな  
し効率的である。彼らの選択はたぶん正しいのだろう。私が学生の時には、教員は雲の上の  
人に見えたものだが。

今どきの大学生は、演習などでの仲間の発表に対して拍手をするという文化を持っている。  
最初はなぜ？と思ったが、慣れてみるとよい習慣だと思う。友だちの努力に敬意を表するの  
は人として立派なことだ。

そして今どきの院生は、仕事が早い。レジメが厚い。プレゼンの見栄えもよい。指示しな  
くとも春には年度計画を持ってくるし、研究費は獲得するし、自分から指導を受けに来る。  
自分から指導を受けには行かず、最後には先生に呼びに来られて、「どうして何も研究案が出  
てこないの？」と聞かれていた我が身を振り返るとあまりに違う。計画性の高さ、早め早め  
の動きは、研究倫理を通さない限り研究ができないというシステムに鍛えられたためなの  
だろうか。

総じて、今どきの学生・院生のいいところがたくさん見える。心を開いて大人に接してく  
れているように見えるし、少なくとも私には彼らが敵には見えない。自分が年を取ったせい  
かもしれないが、会って接すると若者はかわいい。一人一人の彼らはみな自分の人生に対  
してまじめだからだ。青年の“何かになろうとする”真剣さは、昔も今も変わらない。不確  
かな自分をもてあましてながら確かなものを求めていることも、持たざるものとして社会  
の中でマイノリティであることも、昔も今も変わらないだろう。

そう、私が失ってしまったものを彼らはたくさん持っている。そのことに自己嫌悪感をい  
だくようなことはさすがにもうないが、青年らしさへの敬意とあこがれは今でも自分にはあ  
る。

## 今の青年と自分自身の青年時代を比べて

高橋 靖恵（京都大学）

今の時代と、私が青年だった頃と最も違うことは何だろうと思ひ巡らせてみますと、それはコミュニケーションのあり方でしょうか。現代はとてもスピーディで確実です。今のツールは、人と人との出会いにおいても大変便利です。東京在住ではない私が、銀座で待ち合わせをするのに、ただ「いついつに銀座あたりで」だけの約束で、後は当日携帯のメールでよいのです。あるいは、コンセルジュのような携帯が、さらにスピーディに友人を探し出してくれるのでしょうか……。私が青年だった頃、待ち合わせ場所は大切に、出会う準備が必要でした。それでも何かのいたずらか、出会えないことだってあったのです。

しかし、私たちの時代のツールもよい面がたくさんあります。手書きで手紙を書くことは、心を込めて書きますから手間暇かかりますが、思いが込められたものとなります。何度も書き直し、うまく気持ちが伝わるように苦心します。一方、メールならばそれほど返信に時間を要しないはずなので、返信がこないことは様々な憶測を呼び、これが新たな青年期の対人関係上の不安にもつながっているようです。便利になって良いことばかりでもなさそうです。ある学生は、ネット上やメールでの文書のやりとりが主眼になり、発表もスライドが中心になると、「褒められること」は少なく、訂正や誤った考えの指摘を受けることが多くなり、自信喪失になると言っていました。確かに良い発想をしていたりしても「結果重視」で、「プロセスの評価」が少ないようにも思われます。

また現代は意見を伝える時にも、じっくり考えてから相手にメッセージを発信するというのは不要かもしれません。ネット上で思いついた事をつぶやいたり、メールなどで話し合って意見をまとめたり、他者との意見交換によって、発想したことがすぐに何かの計画に盛り込まれたりします。じっくり考えているうちに忘れてしまうなんてことはないのです。私が学生だった頃、意見を述べる時には他者の意見を良く聞いてから、熟考して意見を伝えようとします。それで忍耐力や粘り強さも培われたのかもしれませんが。ありきたりのことではありますが、現代において、迅速な対応力と、粘り強さや熟慮できる力の両方が必要です。しかし、そうそう人は器用に動けません。そうなるそれぞれの持ち味をいかして互いに学び合いながら、熟年世代と若者世代がうまく協働し、よりよい社会を紡ぎ出せたらと思います。

---

---

## 世代差を想う

西平 直喜（名誉会員）

15歳から25歳までの青年と、大正15年生まれ八十歳半ばを越した私とでは、6～70年の開きがあります。「はな ほと まめ ます みの かさ からかさ」という、古色蒼然たる最後の国定教科書と、現代の「あかるい あさひに あいうえお いいこえ いろいろ あいうえお」（光村図書 H24年）という、カラフルな教科書の違いが、その中で育った「世代の特質」となって、そのまま現れているのを感じます。

天皇制軍国主義的色彩、家族制度維持を目的とする道德観、出世志向の努力主義、身分・学歴・性差の差別意識と、IT産業のもたらした社会的豊かさ、民主主義的な思想、両親の持つ権威の衰え、社会全体が発展方向を見失った状況、等。この社会的な差異が、勤勉努力、節約、受け身的、権威主義、事大主義、保身的、好戦的、道德的、対自己中心的、生活を大事にする、感覚的消費の快感、他人に無関心、感動性の弱さ等 という世代的特質を産むのでしょう。

中でも、未来への期待と希望に眼を輝かせているはずの若者が、「何をしてもどうってことはない」「すべてのことは何となくむなし」と、うつむきかげんなのですから、人生全体に対する無気力的な構えが、現代青年の特色として成人の眼に映るのも当然です。

けれども調査をしてみると、青年の多くが「仲間は無気力だけれど、自分は違う」と答えます。外からは、病む「患者」と見える無気力な若者にも、自分は特種の問題意識を持ち、それと戦っているのだと自覚している、エリクソンが『青年ルター』で、患者に見えるが心は病んでいない「患者性」と呼んだライフスタイルをとる青年もいます。

先ず患者と「患者性」を見分け、「患者性」こそ、健康で創造的な青年らしい生き方だと受容することが、今、青年心理学研究者に与えられた緊急の課題だと言えそうです。

---

---

## <書評>

### 速水敏彦編著『仮想的有能感の心理学—他人を見下す若者を検証する—』

(北大路書房, 2012年2月刊, ¥2,940)

高村 和代 (岐阜聖徳学園大学)

最近の若者は様々な場で「ゆとり世代」と揶揄され、上の世代には理解しがたい行動特徴を持つとされてきた。しかし具体的にどのような特徴を持っているのかについては一貫した特徴はなかなか示されない。その中で本著のキー概念である「仮想的有能感」は、現在の若者を記述するうえで非常に有効な概念として心理学界で浸透し、速水氏のベストセラー「他人を見下す若者たち」(講談社現代新書)が2006年に出版されて以来、多くの研究が蓄積されてきた。

従来より大人たちは若者に対して「今時の若者は…」と批判的にとらえ、上の世代には理解できない特徴をもつ世代として受け取られてきた。そのような世代間ギャップが常に繰り返されているなかで、今時の若者が特に「仮想的有能感」が高い傾向があるかどうかというのは、過去のデータと比較することができないためわからない。しかし、本書でも触れられているように、現在の日本ではライフスタイルや価値観が多様化し、新たなコミュニケーションツールが普及していくなかで、個人主義的志向性が高まってきた。さらに、個性化教育の必要性が謳われ、子どもを褒めて伸ばす教育が推進されるようになってきた。このような現代の日本社会では、「仮想的有能感」が高まることは必然ではないかとも思われる。

本書は「仮想的有能感」を持つ若者の特徴、「仮想的有能感」が形成される背景について、これまでの研究成果を元に記述されている。さらには若者の問題行動を仮想的有能感から考察し、教育現場などでどのように「仮想的有能感」の高い若者と関わり適応的な方向へと介入していけばよいかについても提言されている。

現在の日本社会においては「仮想的有能感」を持つことが若者にとって適応的なものではないかとも考えられるが、本書では「仮想的有能感」は抑制されるべきものとして捉えられている。先に述べたように現代の日本社会の背景が今時の若者の「仮想的有能感」を高めたとすれば、我々上の世代の責任は非常に大きい。今後若者の「仮想的有能感」を抑制させより適応的に導く責任を果たすべく、今の若者の理解を深めるために、青年心理学者のみならず青年と関わる方々に広く読んでいただきたい1冊である。

---

---

### 若松養亮著『大学生におけるキャリア選択の遅延—そのメカニズムと支援—』

(風間書房, 2012年2月刊, ¥10,500)

都筑 学 (中央大学)

高等教育がユニバーサル化した我が国において、学校から社会への最終的な移行期として、大学生にとって大学生活をいかに過ごし、自分の進路を決定していくかがきわめて重要な課題となっている。

そうした状況において、進路をなかなか決定できない学生の存在は心理学的にも教育的に

も解明すべき大きな問題であるといえる。本書は、そうした進路未決定学生の意識の特徴について、用意周到に準備された質問紙調査（調査研究）と個人・集団に対する縦断的な教育的働きかけ（実践研究）を組み合わせることによって、多角的かつ総合的に検討したものである。本書は、東北大学に提出された博士学位論文にさらにデータを付け加えて構成されたものであり、キャリア選択・決定に関する豊かな心理学的知見を提供するとともに、学生の進路決定支援にかかわる大学内の関係諸機関の実践に対しても有益な示唆を与えるものとなっている。

本書の特徴は、多数の実証的な知見にもとづいて、進路未決定者を膠着型（不安が強く進路選択以外の領域における決定も苦手とする）や途上型（膠着型より軽度で、発達の過程で普通に見られる）などのように類型化し、それぞれのタイプの学生が抱えている困難さの違いを記述的変数（つまりいている問題として学生本人が認知している変数）と説明的変数（未決定の背景・メカニズムを説明する変数。パーソナリティなど）を厳密に区別しながら検討していることである。第3章で、進路意思決定困難さ尺度（CDDQ-R）を独自に開発し、第4章から第9章において、教員養成課程とその他の学部にも所属する学生を対象に、順々に実証的知見を積み上げていく。未決定の要因を丹念に突き止めようとする作業によって、収集されたデータは隔々まで分析しつくされ、本書の全体的構成を揺るぎないものとして支えている。

大学生のキャリア発達の有り様は、社会・経済的な要因の変動によって時とともに変わっていく。一つの到達点を極めた著者が、時代的・歴史的な流れにおける大学生のキャリア発達の実相を今後さらに追求して、さらに成果を上げることを心から期待したい。

---

---

## 《事務局からのお知らせ》

### I. 2012年度大会について

第20回大会につきまして、今回、大会論文集を同封しております。交通の便も良いところですので、積極的なご参加をお願いいたします。

開催場所：武庫川女子大学 中央キャンパス

兵庫県西宮市池開町 6-46 阪神電鉄 鳴尾駅より徒歩約7分

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/access.htm#chuou>

準備委員長：佐方哲彦先生（武庫川女子大学文学部）

日程：2012年11月10日（土）～11日（日）

なお今回は、大会予約参加費等は郵便振替による入金ではないため、振替用紙を同封しておりません。1号通信をご覧のうえ、銀行等からご入金ください。

### II. 役員選挙について

本年度行われました2013～15年度の役員を選出した選挙につきまして報告します。投票総数は40通で、投票率は9.5%でした。投票率のこの低さは今回に限った話ではありませんが、もっと多くの方が関心をもってくださればと思います。開票は9月11日の17:45から、4名の学会員の立ち会いの下、日本心理学会大会会場にて行われました。その結果、以下の通り当選者が確定し、またご当人からも承諾のお返事をいただきました。

理事（五十音順；敬称略）

浦上昌則（南山大学） 大野 久（立教大学） 小塩真司（早稲田大学）

後藤宗理（椋山女学園大学） 佐藤有耕（筑波大学）

白井利明（大阪教育大学） 高木秀明（横浜国立大学）

都筑 学（中央大学） 二宮克美（愛知学院大学） 平石賢二（名古屋大学）

溝上慎一（京都大学） 若松養亮（滋賀大学）

※大会前日に開催される理事会において、会長と常任理事が決まります。

※会長指名による理事が、他に1～3名の範囲で増えることがあります。

監事（五十音順；敬称略）

伊藤裕子（文京学院大学）

速水敏彦（中部大学）

### Ⅲ.機関誌 24 巻 1 号における著者名の誤字について

すでにお送りしています機関誌 24 巻 1 号に掲載された以下の原著論文について、著者名に字の誤りがございました。編集事務局より、お詫びして訂正をお願いしたい旨の連絡が届いております。

森 巖：日米青年の自我同一性—相互独立—相互協調性および親への愛着との関連において—

「巖」の文字に誤りがあったとのことです。今回、訂正シール 2 枚を同封いたしておりますので、①表紙と、②本文第 1 ページの著者名のところに、貼り付けてください。

### Ⅳ.会費の納入状況のお知らせについて

タックシールに付記して会費の納入状況をお知らせしています。また未納がある方には、納入状況に合わせた払込取扱票を同封しております。2012 年度分より年会費の額が変更になっていますので、特に 2 年以上の未納分がある方は、正確に計算をいただき、併せて納入していただきますよう、お願い申し上げます。納入状況の記号は以下の説明と照合してください。なおこの記号は、9 月 22 日時点のものをもとに作成しています。行き違いがございましたら、ご了承ください。

納入状況 A：納入の必要はありません。

納入状況 B：2011 年度までは完納ですので、2012 年度分の納入が必要です。

納入状況 C：2010 年度までは完納ですので、2011～12 年度の 2 年分をお願いします。

※正会員ですと、5,000 円（2011 年度分）＋7,500 円（2012 年度分）となります。

納入状況 D：2009 年度までは完納ですので、2010～12 年度の 3 年分をお願いします。

納入状況 E：（以下、未納の年数が 1 年分ずつ多いことを意味します）

入金の振替口座は「00970-0-125990」です。なお「学生会員」と「一般会員」の区別に注意してください。大学院等に学籍がある方（科目履修生は含まれません）は、オーバードクターや研究生も含めて、「学生会員」となります。未納年が複数ある方で、途中からこの区分が移行した方は納入額にご注意ください。

★ ゆうちょ銀行以外の銀行からの振り込み先

店名：〇九九店 当座預金 口座番号：0125990

※この当座預金口座には、銀行の ATM から入金できます。

※ゆうちょ銀行に口座を持っていて、「ゆうちょダイレクト」の登録◆をしていればインターネット経由で入金できます（「ゆうちょダイレクト」からの振替は月 5 回まで手数料無料なので手軽&お得です）。

◆[http://www.jp-bank.japanpost.jp/direct/pc/what/dr\\_pc\\_wh\\_index.html](http://www.jp-bank.japanpost.jp/direct/pc/what/dr_pc_wh_index.html)

【付記 1】大学の研究費から年会費を納めていただく際には、**必ず、ご本人から**学会事務局宛てに、「何月（何日頃）に〇〇大学から××（お名前）分の会費が納入される」というご連絡をメール等にてお送りください。

【付記 2】近く、機関誌 24 巻 2 号が発行され、次号のニューズレターと併せて、会費を完納されている方にはお届けいたします。2012 年度までの会費が未納である方には、

納入を待つて個々にお送りすることから、事務局の業務が増大し、またお待たせすることにもなります。未納分のある方は、お早めに納入をお願いします。

## V. 会員異動

## VI. 送付先不明の方のお名前

HP 掲載にあたり、この2つの記事は削除しています。

日本青年心理学会事務局  
The Japan Society of Youth and Adolescent Psychology  
〒520-0862 滋賀県大津市平津2丁目5-1  
滋賀大学教育学部 若松研究室内  
TEL & FAX : 077-537-7770  
E-mail : seinenshinri@edu.shiga-u.ac.jp  
Homepage : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsyap/>  
振替口座 : 00970-0-125990  
口座名称 : 日本青年心理学会  
お問合せはできるだけ E-mail でお願い致します。